

【令和7年5月知事定例記者会見】 5月27日

IAEA 国際会議に動画出演

5月26日から30日まで、ウィーンで国際原子力機関（IAEA）の国際会議が開催中。この会議に、原発立地自治体の知事の立場で、原発に対する考え方や経験を述べてほしいと、グロッシー事務局長から招待を受けた。日程の都合上、出席できないため、動画を送った。

会議はインターネットでライブ中継され、動画は日本時間で本日22時頃流れる。28日に県のホームページにも掲載。時間は約6分程度。

● 健康を守る“一手”は「歩」

健康寿命を延ばすため、歩く大切さを伝える広報の1つ。

佐賀県の1世帯当たりの自家用車保有台数は、全国と比較しても非常に高い。いわゆる車社会。糖尿病の疑い者数や骨折患者数も、近年1位が多い。また、1人当たりの医療費は全国でワースト。ただし、受診しやすい環境というプラスの面もある。

糖尿病や骨折の予防に、歩くことは大切なので、動画を作成した。タイトルは「歩王戦」。

【動画放映】

将棋の「歩」は、前に一歩ずつしか進めない。しかし、枚数が一番多く、一番大切な駒とも言われる。動画では、対戦相手の「歩」が全く動かず、攻められている。歩かないと、けがや病気が忍び寄ってくると表したかった。現実には、闘病中の方がおられるので、表現に配慮し、できるだけ予防を呼びかけた。

「SAGATOCO」を利用し、少しでも歩く意識を高めてほしい。

「SAGATOCO」の効果なのか、人工透析の患者数が減少傾向にある。早い段階から歩く習慣がつくよう、県民への呼びかけ運動を行っていく。

「SAGATOCO」利用者は13万2,000人に達した。今後さらに拡大し、佐賀らしい取組として位置づけたい。健康のために歩く。まずは一歩、踏み出してみませんか。

● 新たなステージへ SAGA スポーツピラミッド構想（SSP構想）

8年前から始めた SAGA スポーツピラミッド構想。佐賀県がスポンサーをする際に、SSPと表記している。官民一体となり、基金をつくり様々な支援で応援する。

トップアスリートの育成と裾野の拡大を目指す。スポーツは「する」だけでなく「観る」「支える」ことで裾野が広がり、引退後のアスリートにもセカンドステージの場が増える。この三角形を大きくするのが、SAGA スポーツピラミッド構想。

昨年の国スポ・全障スポは、あくまでも跳躍点。その先の姿を考え、大会を作り上げた。そのため、国スポ終了後もSSP推進局を存続。スポーツにおける地域振興を図りたい。さらに、政策提案でスポーツ庁の誘致や自衛隊体育学校の誘致を打ち出していく。

体育が戦後教育で果たした役割は大きいですが、画一化や規則を重んじることに特化し、笑顔でスポーツを「する」、「観る」、「支える」部分が少なかった。そこを解放した新しい国スポの大会にした。新しい時代のスポーツをつくっていく。

基本理念・施策を定めた条例を制定。まず、寮を3つ造り、県外の人が住めるようにした。練習環境の充実のために、レスリングセンターやクライミングベース、ホッケー場を造った。セカンドキャリアの形成支援。スポーツは、しなくても楽しんで支える文化でもあると定着させた。その結果、スポーツビジネスの拠点となり、お金も回る。スポーツにお金を使う楽しさを提供し、それがまちの潤いになる。県民誰もが、それぞれのスタイルでスポーツを楽しむ環境を整えた。

毎年5月25日は「SSP構想の日」。2020年、コロナ禍でインターハイや甲子園が中止になる中、佐賀県はすべての高校の予選、県大会を開催すると決断した日に制定した。

SAGA サンライズパークは、コンサートや大きな試合などの非日常と普段のランニングで使用するなどの日常が交差する象徴的な場所。様々なコンセプトが評価され、6月2日にはスポーツ庁長官賞を受賞する。これを契機に新しいスポーツ・文化シーンをサンライズパークから発信していきたい。

全障スポは、団体スポーツの出場枠が少ない。出場できなかったチームを中心に「SAGA パラスポ2025」を創設しようと各都道府県に呼びかけ中。好評で競技数も増えそうだ。

九州ブロック大会を勝ち抜いた3つの団体スポーツが、全障スポ滋賀大会への出場を決めたことも併せて報告する。

- さが外国人材雇用サポートセンターを開設します

佐賀で働く外国人材、雇用する事業所は10年で3倍になった。既存のさが多文化共生センターと連携したワンストップ相談窓口が、7月7日にオープンする。外国人の皆さん、外国人雇用を目指す事業所の皆さんも佐賀県国際交流プラザをご利用ください。

- 江藤新平の復権に向け、「志」を今こそ、一つに

江藤新平復権プロジェクトの支援を5月27日からふるさと納税で募集を開始する。順境であれば、復権宣言の記念碑、顕彰活動、シンポジウムなどに活用する。

- 今年の夏も「Grand Blue 2025」からはじめよう

唐津の西の浜にマリンスポーツの拠点を設けようという構想。去年の「team bub.（チームバブ）」は、TikTok 総再生 1,000 万回超。多彩なアーティストが集結し、マリニアクティビティも充実。ほかにキッチンカーやバーベキュー、ラストは花火。入場無料。